

布哇教育會編纂

日本語讀本 卷八



目録

第一課	感謝	一	第十一課	ヨーロッパの旅	五十七
第二課	綱引	二	第十二課	中濱万次郎	六十五
第三課	汝の母	五	第十三課	松の根	七十一
第四課	東京から下關まで	十五	第十四課	舊師に送る	七十五
第五課	漁船歸る	二十六	第十五課	生存競争	七十八
第六課	愛馬熊野	三十二	第十六課	嚮十文字	八十四
第七課	かうばしい果物	三十七	第十七課	空に迷ふ	九十
第八課	鳩	四十二	第十八課	伊藤博文とマテソン翁	九十八
第九課	明治神宮參拜	四十五	第十九課	猫の垣巡	百五
第十課	釋迦	五十	第二十課	チャールズ・ダーウィン	百十一

第二十一課	文字	百十六	自修文
第二十二課	旅のおとづれ	百二十一	一 母をたづねて
第二十三課	月光の曲	百二十六	(一) ----- 一
第二十四課	鎌倉 <small>かまくら</small>	百三十四	(二) ----- 九
第二十五課	製糖	百三十八	(三) ----- 十七
第二十六課	お雛様 <small>ひな</small> と五月人形	百四十一	(四) ----- 二十五
第二十七課	キラウエア火山	百四十六	(五) ----- 三十四
第二十八課	布哇通信	百五十三	二 達磨 <small>だるま</small>
第二十九課	青年時代のワシントン	(一) ----- 百六十一	----- 三十九
		(二) ----- 百六十八	
第三十課	かながき四書	百七十三	

驅

第一課 感謝

野口米次郎

私は終日野原や林を駆廻る。

あゝ、私の心は空飛ぶ風の心であつた。

あゝ、雲に歌ふ小鳥の心は私の心であつた。

風の心は夕日の影で静まり、

小鳥の心は星の光で黙る。

私の心も驚いて家のことを思ひ出す。

そつと勝手口からはいつて、ていねいな言葉でお

母かあさんに言ふ、

「遊びすぎました。どうぞかんばんして下さい。」

居間には私の晚餐ばんさんが温められ、

Copyright By
HAWAII KYOIKU KAI, 1930.

所 著 權	昭 和 五 年 七 月 廿 八 日 發 行
印 刷 者	第 十 版
內 外 圖 書 出 版 協 會	編 者 布 哇 教 育 會

MADE IN JAPAN

heedlessly sits up again!"] From this little song it would seem that the form of the toy has not been much changed since the seventeenth century; Daruma still wears his hood, and is still painted red—all of him except his face.

Besides the Snow-Daruma, and the toy-Daruma (usually made of papier-mâché), there are countless comical varieties of Daruma: figures moulded or carved in almost every kind of material, and ranging in size from the tiny metal Daruma, half-an-inch long, designed for a pouch-clasp, to the big wooden Daruma, two or three feet high, which the Japanese tobacconist has adopted for a shop-sign..... Thus profanely does popular art deride the holy legend of the nine years' meditation.

(from "A Japanese Miscellany")